

平成25年度 五泉市国語部 活動報告

部長 若杉 水緒

1 研究主題

学習指導要領の趣旨をふまえ、研修を深める。

2 研究の概要

講師の先生を招き、講演・演習を行う。児童の立場になって学習活動を行うことで、児童の考えに気付いたり、指導上のポイントを理解したりする。日ごろ取り組んでいる実践を紹介し、共有する。また、学習指導要領をふまえた授業研究の指導案を検討する。その後、授業を参観し、協議を行い、意見交換をして研修を深める。

3 研究の実際

(1) 講演・演習 平成25年6月27日(水)

演習①「連詩にちょうせんしよう」、演習②「みんなに伝えます～私が読んだ新聞記事～」を行った。実際に詩を作ってみると、言葉や内容をつなげることの大切さを実感することができた。また、新聞記事の見出しを考えることで、書き手の立場に立って伝えたいことをとらえる力が必要であることを理解することができた。



(2) 授業研究指導案検討 平成25年9月11日(水)

単元構成、本時のねらい、教材の提示の工夫などについて、意見交換をした。

- ・子どもたちのどんな気持ちを読み取らせたいのか。本時でねらう児童の姿はどのような姿なのかを明確にもつことが大切である。
- ・動作化は、何を動作させるのか、動作させることで何に気付かせるのか。動作をさせて終わるのではなく、叙述に戻り、登場人物の子どもたちと自分を同化した読みをさせる手立てが必要である。

(3) 授業研究 平成25年10月9日(水)

授業者：五泉市立愛宕小学校 教諭 中山 亜希子 先生

単元名：「こえにだしてよもう」

教材名：『くじらぐも』（光村図書1年）

指導者：五泉市立橋田小学校 教頭 神田 久子 様

<授業・協議会の概要>

「子どもたちの行動や会話を手掛かりに、気持ちを想像しながら読むことができる」という本時のねらいで授業を行った。授業後、「自分の考えをもたせるために、吹き出しを用いたワークシートは有効であったか」「登場人物の気持ちを想像するために、二人組で伝え合うこと、動作化を取り入れることは有効であったか」という視点で協議をした。吹き出し、動作化では、叙述に戻る必要性が検討された。



<指導者から>

児童が課題を解決していくための学習過程を明確にし、単元を貫く言語活動を位置付けることが大切である。本教材は、音読が内容の理解を助ける教材の典型である。

4 成果と課題

講演・演習では、実際に活動をやってみることで、指導上のポイントに気付いたり、楽しさを味わったりすることができた。また、すぐ自分の学級に生かすことができるヒントをたくさん得ることができた。授業研究では、低学年の物語文指導の在り方や、動作化など具体的な手立てを検討することができた。今年度の活動で学んだことを日々の実践にしっかりとつなげていきたい。